

ウィークエンド

わが本
ちが母校

早稲田大学

三菱オートリース社長

藤川 純太氏 (64)

早稲田大学理工学部の入
学式の当日、ボート部に勧
誘されるがまま入部した。
体格が良かったこともあつ
て先輩の目にとまったのだ

と思う。ボート部は理工学
部のボート好きが集まって
創設された。ボートをこぐ
ことが好きな人がいれば、
全日本選手権で優勝を目指
す人もいたり、部員の層は
幅広かった。それぞれ異な
る目標を持つ部員と過ご
し、人生に役立つ多くのこ



戸田で練習するボ
ート部(左から2人目
が本人)

代。合宿費用を捻
出すため、倉庫
番やボウリング場で
のアルバイトをすい
ぶんやった。

4年次には主将を
務めた。同期にはボ
ート部OBとして活
躍している林操君
(元日本航空)や石
井仁司君(早稲田大

ソンに出場したり、絵画で
賞を受けるなど元気で多才
なアクティブシニアだ。彼
らからは今でも刺激を受け
ている。

大学卒業後は三菱商事に
入社し、70年から米国駐在
前の8年間コーチとして指
導した。ボートは自分の限
界を乗り越え、新たな限界
に挑戦するスポーツだ。自
分自身との戦いでもあるか
らこそ、仲間の存在が暗黙
の支えだった。ボートに対
する思いが部員それぞれ違
うため、苦勞したこともあ
った。しかし部員同士が自
由闊達に議論し、互いに理
解し合って一つの方向性を
導き出してきた。ボート部
でその大切さ学べたのは、
私の人生にとって大きな財
産である。

とを学んだ。
1年の半分は埼玉県戸田
市の漕艇場オリンピックコ
ースで合宿した。朝5時に
起床し、早朝練習を終えて
から大学に通った。理工学
部は授業の縛りが厳しく、

空き時間を使って学内で個
別練習に励む毎日。練習が
終われば新宿の酒場ニッカ
バーの100円飲み放題に
行ったりし、よく飲んで議
論した。当時の1960年

代は日本がまだ貧しい時
代は日本がまだ貧しい時
代は日本がまだ貧しい時

(東京都港区芝5の34の
7)

ボート部で自分の限界に挑戦